# バイオテクノロジー標準化支援協会ジャーナル　No. 100

## SABS Journal　No. 100

発行日　2018 年 5 月 19 日（土）
URL　https://sabs.sabsnpo.org/

このジャーナルはもともとバイオテクノロジー標準化支援協会（SABS）内部向けのものでしたが、数年前から、少しでもバイオテクノロジーにご関心のありそうな方々に向けても配信しています。ご興味の無い方はこのメールに返信して配信不要の旨をお知らせください。

SABS ジャーナルでは、故奥山典生都立大名誉教授が毎回様々な分野にわたり、次から次へと溢れる蘊蓄を披露されて居られました。その後、奥山先生のご遺志を継ぎ協会を続け発展させて行くため毎月の定例会を継続し、いろいろな方々がそれぞれ専門の話題を提供し話合って、親睦と勉強を深め、当会の活動の一助となるよう努めて参りました。

現在、このジャーナルを読んで下さる方々は数百名に上ります。ぜひ読者の中から話題提供をして下さる方が出てきて頂けることをお待ちしています。このメールに返信して頂ければ幸いです。ご感想、エッセイなどのご投稿も大歓迎です。連絡先は thiyama@athena.ocn.ne.jp です。なお「医学と生物学」誌の復刊準備もあり当会のホームページが昨年末一新されました。ぜひ http://sabsnpo.org/index2.htm にアクセスしてご覧ください。

## 1）昨日・今日・明日

今年は冬が非常に寒かったのに春が非常に早く終わって直ぐ 4 月中に夏日まである初夏になってしまいました。5 月にはいると既に盛夏みたいな日々が続く今日この頃です。

奥山先生懸案の「医学と生物学」復刊準備は遅れてはいますが、近いうちに復刊第1号を発行出来ればと思っています。いつも申し上げているようにこの雑誌の扱う分野は 1942 年の第1巻から非常に幅広く医学と生物学に関係するあらゆる分野が含まれていました。2013 年の最終号では、看護学、老人医学、リハビリ関係、小児科、心理学・精神科、栄養学・食品、薬学関係、臨床医学、解剖学、動物学、生理学、保健予防医学、医学教育、細胞生理学、植物学、歯科、皮膚科、免疫学、臨床検査、環境など非常に幅広い分野を網羅しています。復刊誌は、旧「医学と生物学」と同様に医学中央雑誌に登録し、投稿原稿は受付してから2週間以内に査読を完了し受理の可否を投稿者に伝え、また原則として受理した投稿論文は受理から1カ月以内に掲載するつもりです。国際的に認められていた速報誌の復刊ですので、このニュースレターをお読みの皆さまにもぜひご投稿頂きたくよろしくお願いいたします。

ここのところこれまでにも増して世界情勢とりわけ我が国周辺の情勢が激しく動いています。隣国は永年にわたり東西に分断されていますが、近いうち大きな動きがあるかも知れません。その中心の一人が矛盾だらけの現米国大統領だとは何とも皮肉です。どうなることやら。

さて前回の定例会では久し振りに山口大学名誉教授畑中顯和先生が再び登場され、来年 88 歳となられる先生が自らの研究生活を振り返ってのお話をされました。先生は大変お元気でこの 9 月ケンブリッジ大学でピレトリン関係の基調講演をされることになっています。お話の冒頭にはその時のための先生自作のスライド(ppt file)を披露されました。「何でも間違いを指摘して下さい」とのお言葉に皆遠慮なくコメントしましたが結局全部 minor なものばかりで改めて先生の「若さ」に一同敬服した次第です。

先生は 1957 年当時高槻にあった(現在は宇治)京大化学研究所で武居三吉教授のもとで研究生活を始められました。武居三吉教授(1898-1982)は 1933 年緑茶の香りの研究で、宇治チャ生葉 5000 kg から"青臭い香り"3-ヘキセノールを単離、これをドイツのクルチウスが 1912 年に発見した青葉アルデヒドにならって 青葉アルコールと命名した人です。しかし、これが青葉アルデヒドとはかなり異なる"青臭い香り"であることも感別していた。それからこの研究は第 2 次世界大戦で中断、大学院学生の畑中先生へと引き継がれたわけです。研究室での若き日の大活躍のお話は何度伺っても「奇想天外」に近いものです。まず大量の茶葉からの抽出で僅かしか採れない青葉アルコールを合成によって量的に確保しようという試みです。原料は当時溶接だけでなく夜店の明かりにも使われていたアセチレンでした。ドライアイスで冷却した液体アンモニウム中で行う合成のため、アセチレンボンベ、液体アンモニウムボンベそれにドライアイスなどを駅からリヤカーで運んだり、これら猛悪臭の上有毒且つ危険なガスを使う合成実験はドラフトで行われ、しばしば徹夜したりして遂に成功に漕ぎつけたお話は何度聞いても驚きの連続です。この合成法をさらに拡張・改良して、同族異性体 7 種を合成することにも成功しました。この進取の実験 がその後の"みどりの香り"の研究へ発展、半世紀後の今日に至るわけです。青葉アルデヒドを果実・甘さ・新鮮香、そして青葉アルコールをグリーン香・野菜・果実香とはっきり鑑別し、また、この両者の混合比により千差万別の四季の香りが醸成されることも明らかにされました。

さて次回の話題提供は再び松本邦男先生にお願いすることになりました。先生は昨年何回にも渡り戦中に様々な学界の学者が協力して英米でも実用化されたばかりのペニシリンの開発を日本で独自に行った歴史について「国産ペニシリン開発史」として膨大な史料をもとにお話を頂きました。以前にもご紹介した先生のご略歴を下記に再録します。

松本先生のご経歴: 昭和 40 年 東京理科大学理学部化学科を卒業、同大学院修士課程修了し、東北大学理学部と東京医科歯科大学硬組織生理研究施設にて田宮信雄教授に師事し生化学を学ぶ。昭和 42 年 東洋醸造株式会社入社・平成 4 年 旭化成工業株式会社との合併に伴い診断薬事業部に移る。研究部長, 工場長, 営業部長, 子会社役員を務める。研究開発:酵素工学を中心に, ① β-ラクタム系抗生物質, ② 固定化酵素, ③ バイオリアクター, ④ バイオセンサー, ⑤ 臨床検査薬など、平成 8 年 東京大学にて博士号(農学)取得。平成 8 年 神奈川工科大学 工学部応用化学科 教授 ・平成 18 年 工学部 応用バイオ科学科(新設) 教授(学科長)・平成 20 年 応用バイオ科学部(新設) 応用バイオ科学科 教授(学科長) ・平成 21 年 理事・副学長・学部長に就任・平成 22 年 応用バイオ科学部 栄養生命科学科(新設) 教授(学部長) ・平成 24 年 神奈川工科大学を定年退職。平成 24 年 栄養生命科学科特任教授, 教育開発センター副所長、 教育開発センター 顧問を経て現在神奈川工科大学名誉教授。

松本先生は永年ご自身も携わってきた抗生物質関係を中心に近年は科学史研究に関わって来られ学界発表もしばしばされて居られます。

野口英世関係でも、渡米するまでに、野口英世に影響を与えた人たち、野口英世自筆の履歴書（東大医科研から入手）ならびに内務省からの伝染病研究所雇用に関する書類、済生学舎関係、当時の伝染病研究所の写真、野口英世が勤務していた横浜開港検疫所など最近新しい史料をいろいろ見つけられました。これらを中心に、野口英世が細菌学者として踏み出すまでの過程についてのお話しです。武野さんのお話以来、改めて野口英世に興味を持ち始めた本会としては大いに期待しています。今回資料は写真が多く添付出来ないので近いうちホームページからアクセス出来るようにしたいと考えています。

＊＊　　＊＊　　＊＊

## 2）　第 91 回定例会のおしらせ。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

### バイオテクノロジー標準化支援協会　第 91 回　定例会

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

日時：　2018 年 5 月 25 日(金) 14 時 00 分 – 16 時 00 分

場所：　八雲クラブ（首都大学東京同窓会/旧都立大同窓会）ニュー渋谷コーポラス 10 階

話題：「野口英世物語」

第一部･渡米まで–野口英世に影響を及ぼした出会いと細菌学者への道のり–

話題提供: 神奈川工科大学名誉教授　松本邦男

参加費：無料

＊定例会はどなたでも参加できます。皆さまのご参加をお待ちしています。皆さまのご参加をお待ちしています。

八雲クラブへの道順：

渋谷駅から井の頭通りの坂を東急ハンズ目指して上り、ハンズ建物を過ぎ交差点角を右に回って直ぐまた右に曲がるとハンズ裏搬入口になります。その隣の建物がニュー渋谷コーポラスです。 入口奥のエレベーターで 10 階に上がり直ぐ右隣です（地図参照、赤丸印)。

＊＊　　＊＊　　＊＊

定例会は原則として毎月第 4 金曜日 14：00-16：00 に八雲クラブで開いています（例外として７月、８月および１１月はお休みで、その代わり１２月は第１金曜日に忘年会を兼ねて行います)。因みに既に今年は 3 月 23 日、4 月 27 日に会場を予約してあります。会員でも会員でなくても自由に出席して、自由に発言出来ます。友人同士誘い合わせてご出席ください。

このジャーナルは現在檜山が毎回拙文を執筆していますが、ぜひいろいろな方にご投稿頂ければと思って居ります。内容・字数は自由です。また定例会での話題提供も大歓迎です。時間は 2 時間程度ですが短くても長くても（この場合は 2 回以上に分けますが）また内容も自由です。ぜひ皆さまのご参加をお待ちして居ります。

＊＊　　＊＊　　＊＊

ホームページ　<https://sabs.sabsnpo.org/>　をご覧ください。本メールジャーナルのバックナンバーが全部収録してあります。

① 配信停止・中止希望は下記アドレスにメールにてその旨お知らせください。
② 配信先等の登録情報変更は メールにてその旨お知らせください。
③ バイオテクノロジー標準化支援協会に新規会員登録をご希望の方はメール下さい。
④ ウエブサイトに関するご意見もメールにて頂ければ幸いです。

（NPO）バイオテクノロジー標準化支援協会
NPO Supporting Association for Biotechnology Standardization (SABS)
〒173-0005 東京都板橋区仲宿 44-2
E-mail thiyama@athena.ocn.ne.jp
URL https://sabs.sabsnpo.org/
理事：荒尾　進介 ；小林英三郎 ；田坂 勝芳 ；松坂 菊生 ；檜山 哲夫
監事：堀江 肇
ネット管理:川崎　博史、田中　雅樹